

令和5年度
全国学力・学習状況調査
結果及び分析



茅ヶ崎市教育委員会
教育総務部 教育センター・学校教育指導課
令和5年12月

はじめに

令和5年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の分析概要をまとめました。

各学校が児童・生徒の学習・生活の状況を踏まえながら、教育課程をはじめ学習指導の充実・改善、児童・生徒一人一人の学習改善や主体的に学習に取り組む態度の育成につなげるための指標として提示します。

特に、教科に関する調査では、平均正答率や全国との差異に目が行きがちですが、児童・生徒が問題に取り組む際に、どのようなことに戸惑い、つまづいたのか、指導を工夫することで問題解決能力が向上するのではないかとといったことに目を向けることが、児童・生徒の学びの質を高めていく上で大切であると考えます。

そのために、「課題が見られた問題」等について、「解答類型」を掲載し、児童・生徒の思考の過程が見える形の分析としました。

また、各家庭でも、児童・生徒が取り組んでいる調査の内容や結果について、本報告書を通して共有していただけたら幸いです。

さらに、質問紙調査については、児童・生徒に対する学習意欲等に関する調査と、学校に対する指導方法等に関する調査を実施しております。これらの調査結果からは、児童・生徒の学習意欲が学習状況と密接に結びついている状況が分かることから、学校・家庭・地域で共有することが、今後の児童・生徒の学力向上に結びつくものと考えます。

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領より抜粋、令和4年12月、文部科学省)

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

(令和5年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和5年8月、文部科学省)

調査状況

(1) 調査実施日

令和5年4月18日(火)

(ただし、英語「話すこと」に関する調査の期間内実施校については、4月18日(火)から5月26日(金)までの間で文部科学省が指定した日)

(2) 調査内容

① 教科に関する調査

ア 小学校

- ・ 国語(知識と活用を一体的に問う問題)・・・14問
- ・ 算数(知識と活用を一体的に問う問題)・・・16問

イ 中学校

- ・ 国語(知識と活用を一体的に問う問題)・・・15問
- ・ 数学(知識と活用を一体的に問う問題)・・・15問
- ・ 英語(知識と活用を一体的に問う問題)・・・17問

② 児童生徒質問紙調査

調査学年の児童・生徒を対象とした、学習意欲や学習方法、生活等に関する質問(小学校59項目・中学校72項目)

③ 学校質問紙調査

各学校を対象とした、指導方法に関する取組等に関する質問(小学校81項目・中学校89項目)

(3) 実施学校数

茅ヶ崎市立小学校19校、茅ヶ崎市立中学校13校 全32校

(4) 実施学年

小学校6年生、中学校3年生

(5) 調査数

① 小学校6年生:2,099人(国語 2,097人・算数 2,099人)

② 中学校3年生:1,856人(国語 1,856人・数学 1,855人・英語 1,854人)

小学校6年生を「児童」、中学校3年生を「生徒」と表記しています。

*各教科の正答率や児童生徒質問紙・学校質問紙調査における回答割合等に係る、各グラフや表に示す「割合(%)」については、それぞれ小数第2位、または第1位を四捨五入していることから、100%にならないこともあります。

全国学力・学習状況調査 教科別平均正答率

	小学校正答率(%)		中学校正答率(%)		
	国語	算数	国語	数学	英語
全 国(公立)	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
神奈川県(公立)	66	63	70	52	50
茅ヶ崎市	62	60	69	53	51
全国との差	-5.2	-2.5	-0.8	2.0	5.4

* 神奈川県の各教科の平均正答率は、文部科学省より小数第1位を四捨五入した整数値で提供されています。

【総括】

【小学校】

平均正答率について、国語は全国平均を下回り、算数は全国平均と同程度である。

【中学校】

平均正答率について、英語は全国平均を上回り、国語、数学は全国平均と同程度である。

☆各教科の分析の見方

【正答数分布について】

* 児童全員の点数を昇順に並べ、人数の

25%の値が第1四分位

50%の値が第2四分位（中央値）

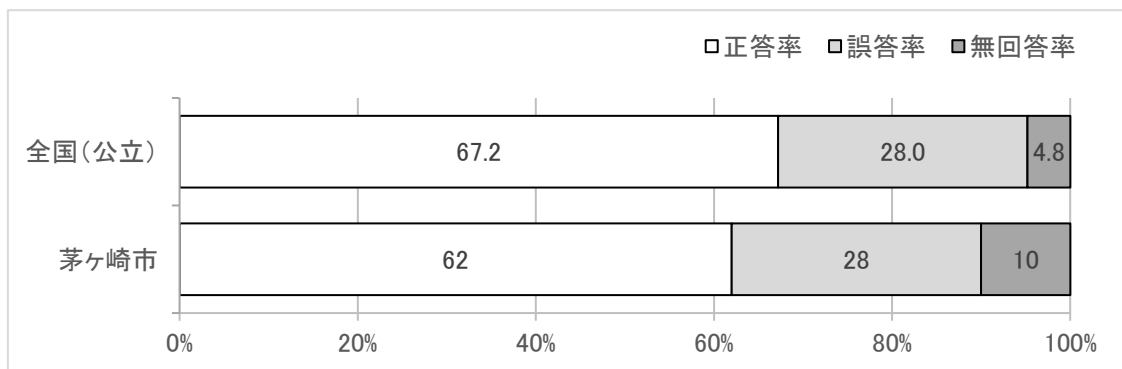
75%の値が第3四分位

四分位範囲=第3四分位－第1四分位で、値が大きいほどばらつきが大きいことを示す。

各教科における解答類型の分析は、解説資料及び報告書を引用または参考としている。

小学校国語

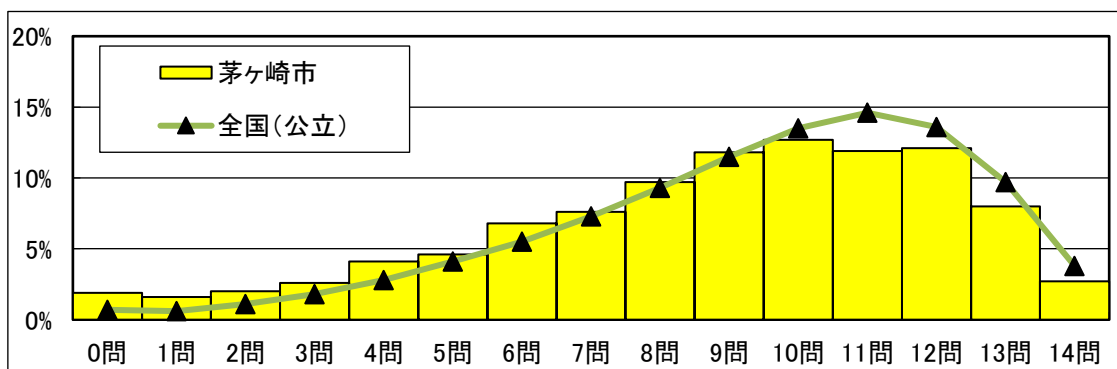
(1) 正答率等比較



(令和5年度小学校国語正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が67.2%であるのに対し、茅ヶ崎市は62%で、全国平均を5.2ポイント下回る。

(2) 正答数分布

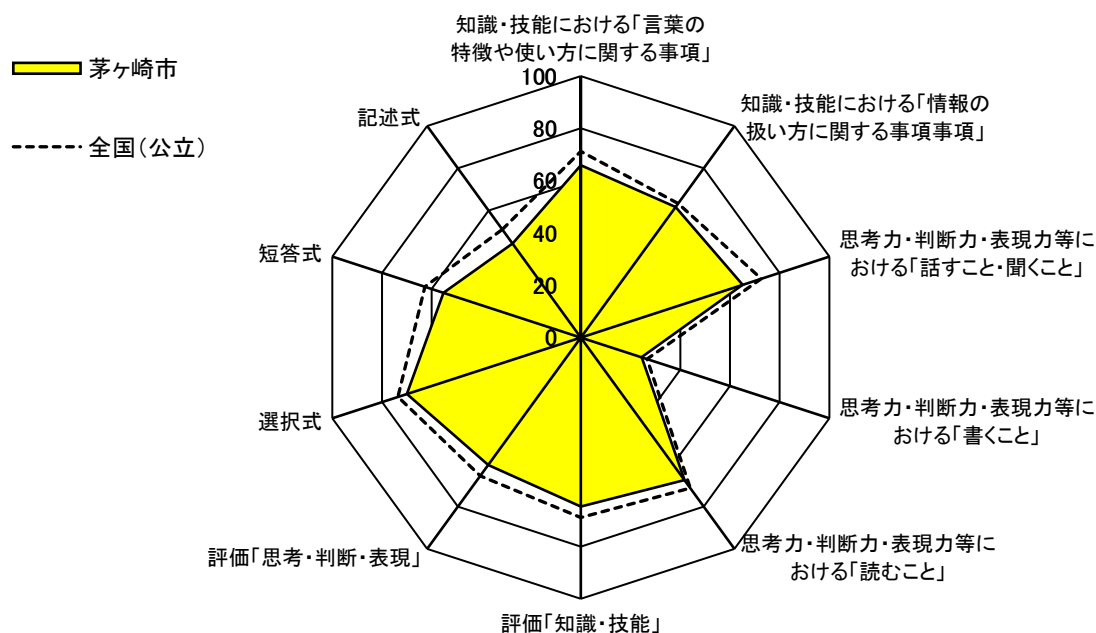


(令和5年度小学校国語正答数分布グラフ)

	茅ヶ崎市	全国(公立)
第3四分位	11問	12問
第2四分位(中央値)	9問	10問
第1四分位	7問	8問
四分位範囲(ばらつき)	4	4

- ◆ 茅ヶ崎市のばらつきは全国とほぼ同じだが、中央値は全国よりも低い。

(3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和5年度小学校国語領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 知識・技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は、65.9%(全国71.2%)であり、**全国平均を5.3ポイント下回る。**
- ◆ 思考力、判断力、表現力等における「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、65.1%(全国72.6%)であり、**全国平均を7.5ポイント下回る。**
- ◆ 【問3 三】の「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」を出題の趣旨としている選択式の問題の**無解答率は、21.7%(全国9.5%)**であり、改善が求められる。

(4) 特に課題が見られた問題

【ピックアップポイント】

全国と比べて、正答率の差が最も大きかったもの。…問題 3 二

【出題の趣旨】

目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

■評価の観点

思考・判断・表現

【問題 3 二】

谷さんは、寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを【インタビューの様子】の□□で話そうとしています。あなたが谷さんなら、どのように話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを書くこと。
- 【インタビューの様子】の、寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にふくまない。

はじめは、見守りボランティアの仕事は大変なことばかりだと考えていましたが、…

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	59.4	70.2

◆ 全国平均を10.8ポイント下回っている。

【解答類型及び解答の割合(%)】

正当の条件 次の条件を満たして解答している。 ① 寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、以下のことを書いている。 a 寺田さんと山本さんの二人の思いをまとめて書いている。 b 寺田さんの思いと山本さんの思いを区別して書いている。 c 寺田さんの思いと山本さんの思いのどちらかを書いている。 ② 【インタビューの様子】の、寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 書き出しの言葉に続けて、40字以上、60字以内で書いている。				
類 型	正 答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、aを書いているもの	26.3	33.3
2	◎	条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、bを書いているもの	6.2	7.2
3	○	条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、cを書いているもの	26.9	29.8
4		条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、条件①については、aを書いているもの	2.5	1.7
5		条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、条件①については、bを書いているもの	0.1	0.1
6		条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、条件①については、cを書いているもの	0.9	0.8
7		条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、条件①については、aを書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする	1.1	1.3

8	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、条件①については、bを書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする	0.0	0.0
9	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、条件①については、cを書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする	0.1	0.1
10	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする	7.9	8.3
99	上記以外の解答	3.3	3.3
0	無解答	24.7	14.3

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

「○」…問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

- ◆ 誤答の中でも割合が7.9%と比較的高い【解答類型 10】については、【インタビューの様子】の寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げて書いている。しかし、寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて分かったことを書いていない。具体的な例としては、以下のよう
なものが考えられる。

(例)お二人とも、見守りボランティアの仕事は、やりがいもあるけど大変さの方が大きいと感じていることが分かりました。(56字)

- ◆ 無解答率が24.7%(全国14.3%)であり、全国平均を10.4ポイント上回っている。
- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

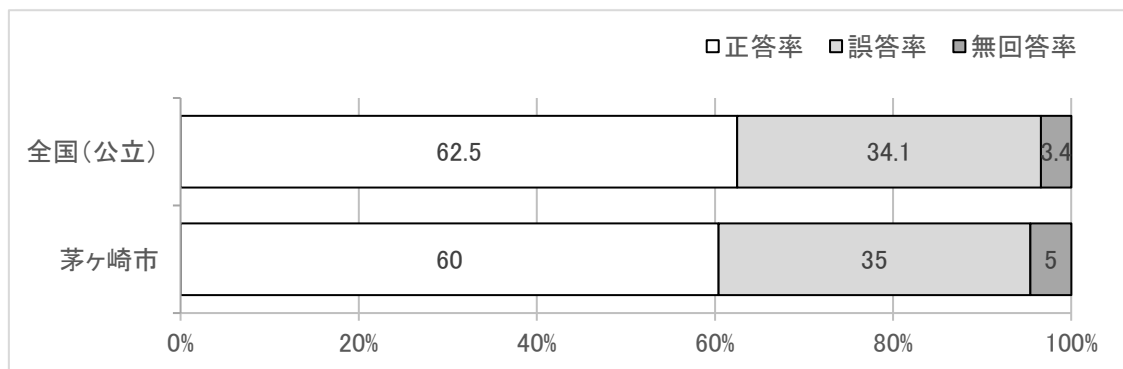
相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞くことができるように指導することが重要である。インタビューをする前に、自分が知りたいことや疑問に思っていることなどを整理したり、答えを予想したりしておくことも考えられる。

その際、インタビューの進め方を友達と確認し合いながら吟味していくと効果的である。また、インタビューをする際には、自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げ、更に質問しながら理解を深め、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめていけるようにすることも大切である。

(令和5年度全国学力・学習状況調査報告書より一部抜粋、令和5年8月、文部科学省)

小学校算数

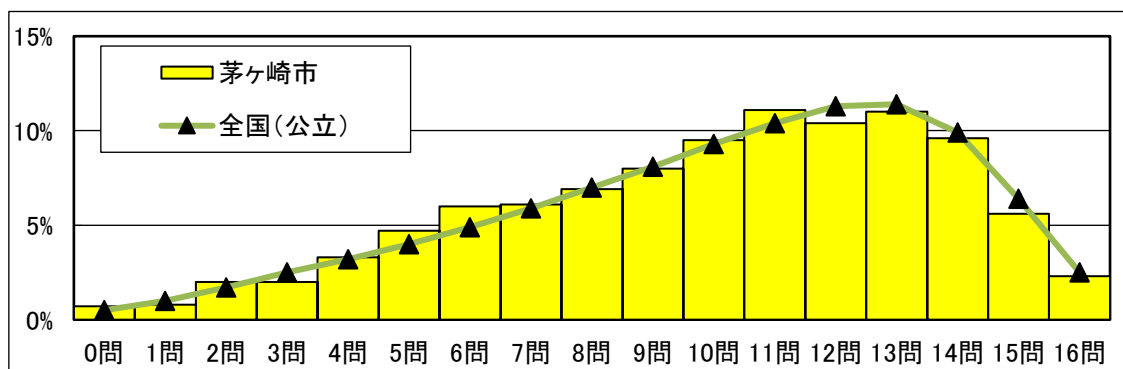
(1) 正答率等比較



(令和5年度小学校算数正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が、62.5%であるのに対し、茅ヶ崎市は60%で、全国と同程度である。

(2) 正答数分布

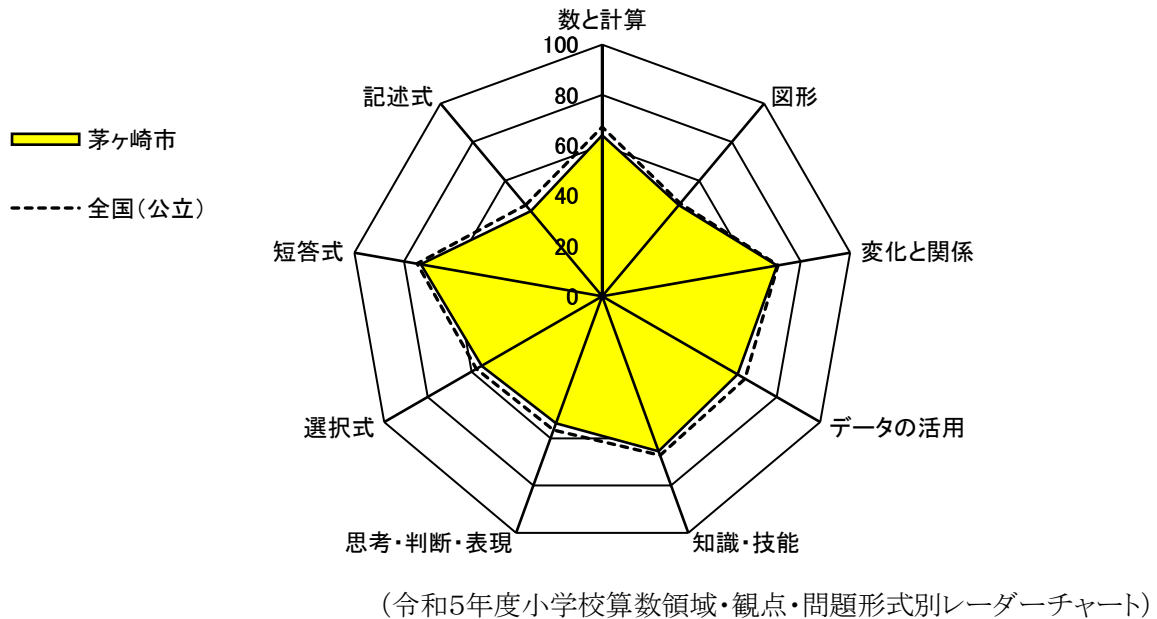


(令和5年度小学校算数正答数分布グラフ)

	茅ヶ崎市	全国(公立)
第3四分位	13問	13問
第2四分位(中央値)	10問	11問
第1四分位	7問	7問
四分位範囲(ばらつき)	6	6

- ◆ 茅ヶ崎市のばらつきは全国と同じだが、中央値は全国よりも低い。

(3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



- ◆ 「データの活用」の平均正答率は**62.1%**(全国65.5%)、であり、**全国平均を3.4ポイント下回る。**
- ◆ 記述式の平均正答率は**44.2%**(全国47.3%)であり、改善が求められる。

(4) 特に課題が見られた問題

【ピックアップポイント】

全国と比べて、正答率の差が最も大きかったもの。…問題 3 (3)

【出題の趣旨】

加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

[第4学年]A 数と計算

(6) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算すること。

[第4学年]A 数と計算

(7) 計算に関して成り立つ性質に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。

(内容の取扱い)

(6) 内容の「A数と計算」の(7)のアの(ア)については、交換法則、結合法則、分配法則を扱うものとする。

■評価の観点

知識・技能

問題	3
(3) けんたさんは、下の①と②の計算について考えています。それぞれ計算の答えを書きましょう。	
① $(151+49) \times 3$	
② $151 \times 3 + 49 \times 3$	

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	65.3	72.4

◆ 全国平均を7.1ポイント下回っている。

【解答類型及び解答の割合(%)】

類型	正答	解答類型		割合(%)	
		①	②	茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	600 と解答	600 と解答	65.3	72.4
2			1506 と解答	10.6	6.4
3			類型1、類型2以外の解答・無回答	12.9	11.4
4		600 以外で、①と②に同じ数を解答しているもの		0.8	0.8
5		298 と解答	600 と解答	0.0	0.0
6			1506 と解答	0.0	0.0
7			類型5、類型6以外の解答・無回答	0.0	0.0
8		類型1から類型7以外の解答・無解答	600 と解答	1.8	2.1
9			1506 と解答	0.9	0.6
99		上記以外の解答		4.3	3.6
0		無解答		3.5	2.5

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

◆ 解答類型について

本設問では、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかを問うている。ここでは、正しく計算したり、より簡単に計算したりするために、①は()の中を先に計算し②は乗法を先に計算することや分配法則を用いて①と②の答えが等しくなると考えたりすることが必要である。

②の加法と乗法の混合した整数の計算において1506と誤って解答しているもの(茅ヶ崎市10.6%、全国6.4%)は、計算の順序についてのきまりを理解しておらず、乗法を先に計算せずに、式の左から順に計算し、 $151 \times 3 = 453$ の計算結果に 49 を足してから $(453 + 49 = 502)$ 、3をかけている $(502 \times 3 = 1506)$ と考えられる。

- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

計算の順序についてのきまりや計算に関して成り立つ性質について理解し、計算に習熟したり、計算を工夫したりすることができるようにすることが重要である。具体的な場面で、 $(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ の計算の答えを比べ、答えが同じになることを確かめる活動が考えられる。

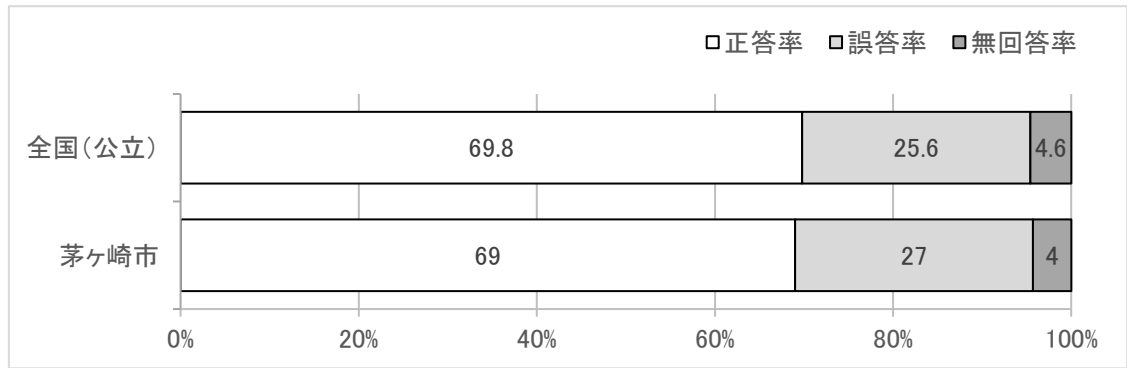
その際、同じ場面を異なる二通りの捉え方をして、それぞれの捉え方に対して式で表し、それらが同じ場面を表しているので、答えが同じになることを理解できるようにすることが大切である。

また、 $(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ の二つの式を見比べて、二つの式を関連付けられないかと考えることができるようにすることも大切である。

(令和5年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和5年8月、文部科学省)

中学校国語

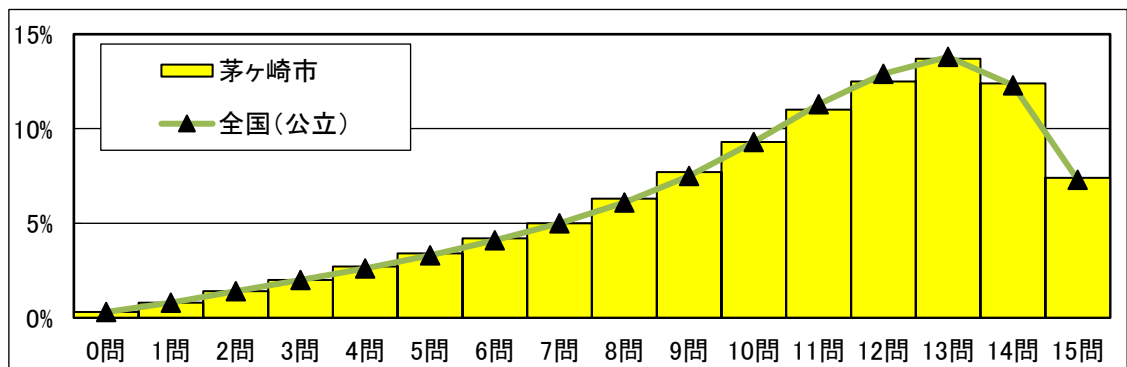
(1) 正答率等比較



(令和5年度中学校国語正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が、69.8%であるのに対し、茅ヶ崎市は69%で、全国と同程度である。

(2) 正答数分布

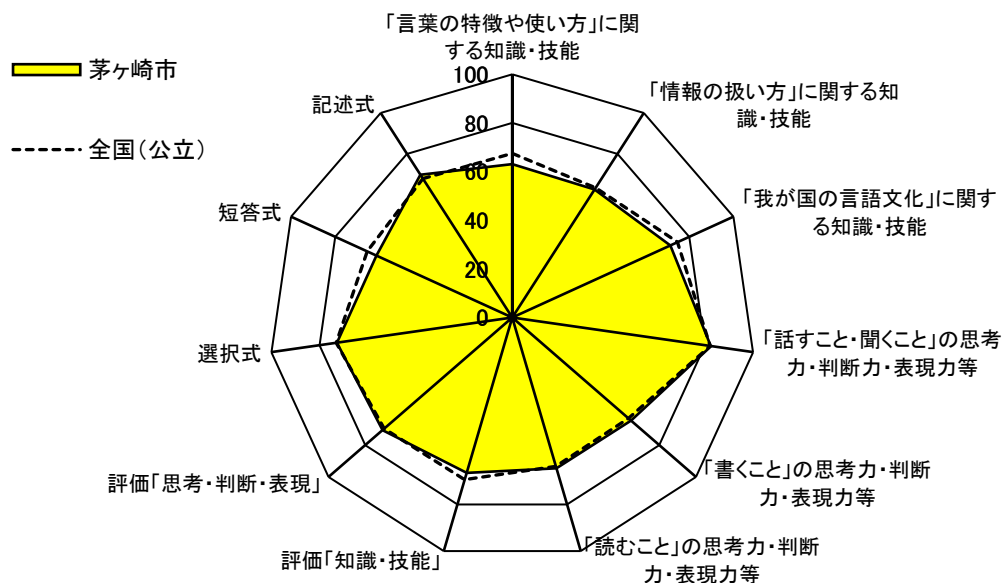


(令和5年度中学校国語正答数分布グラフ)

	茅ヶ崎市	全国(公立)
第3四分位	13問	13問
第2四分位(中央値)	11問	11問
第1四分位	8問	8問
四分位範囲(ばらつき)	5	5

- ◆ 茅ヶ崎市のばらつきと中央値は全国と同じである。

(3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和5年度中学校国語領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 「言葉の特徴や使い方」に関する知識・技能の平均正答率は、63.1%(全国67.5%)であり、全国平均を4.4ポイント下回る。

(4) 特に課題が見られた問題

【ピックアップポイント】

全国と比べて、正答率の差が最も大きかったもの。…問題 3 二

【出題の趣旨】

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。《漢字》

■評価の観点

知識・技能

問題 3 二

—線部のひらがなを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。
(前略)

■「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものと異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」



【図1】サル

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	35.6	43.9

- ◆ 全国平均を8.3ポイント下回っている。

【解答類型及び解答の割合(%)】

類 型	正 答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	「推(し)」と解答しているもの	35.6	43.9
99		上記以外の解答	51.6	45.4
0		無解答	12.8	10.7

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

- ◆ 解答類型について

【解答類型1】は、「お(し)」を文脈に即して漢字で正しく書くことができている。「推」は、小学校第6学年の配当漢字である。

【解答累計 99】について、「押」や「進」、「椎」などという誤答が見られ、その多くが「押」という解答であった。このように解答した生徒は、「推し量る」という言葉になじみがないなど、文脈に即して「おし」の意味を捉えることができず、同じ訓をもつ「押」と書いたものと考えられる。

- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。

漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字 1,026 字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、文章の中ばかりではなく、「A 話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切である。

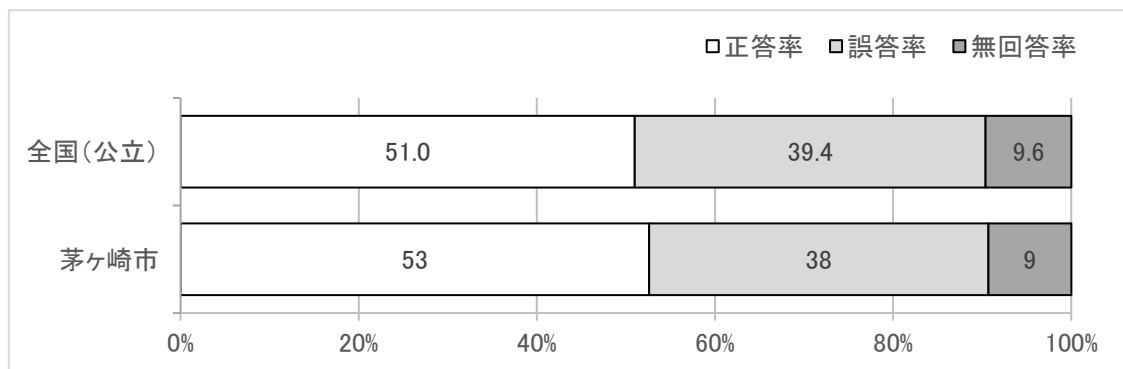
また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。

さらに、1人1台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うことが重要である。

(令和5年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和5年8月、文部科学省)

中学校数学

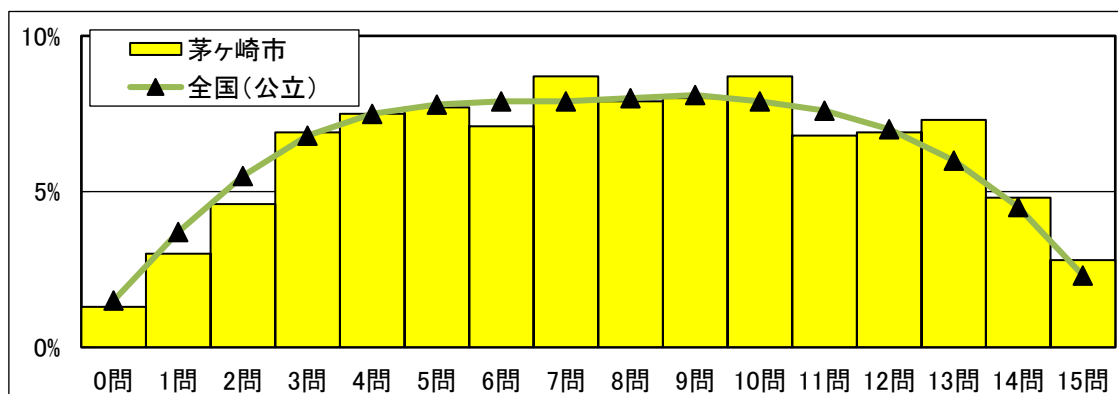
(1) 正答率等比較



(令和5年度中学校数学正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が、51.0%であるのに対し、茅ヶ崎市は53%で、全国と同程度である。

(2) 正答数分布

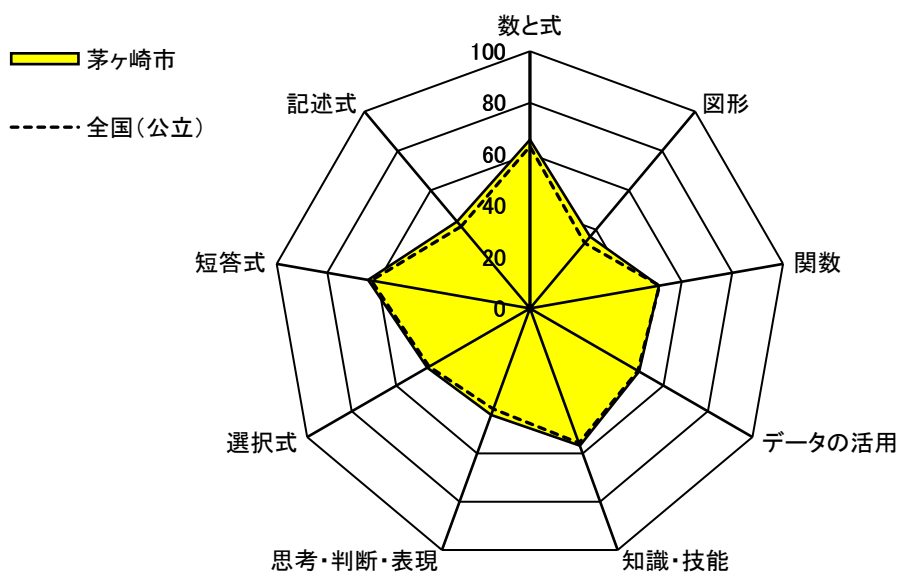


(令和5年度中学校数学正答数分布グラフ)

	茅ヶ崎市	全国(公立)
第3四分位	11問	11問
第2四分位(中央値)	8問	8問
第1四分位	5問	4問
四分位範囲(ばらつき)	6	7

- ◆ 茅ヶ崎市の中央値は全国とほぼ同じだが、ばらつきは全国よりも小さい。

(3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和5年度中学校数学領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 全ての領域等において、全国とほぼ同程度となっている。
- ◆ 記述式の問題の中で、問9(1)の正答率は39.0%(全国32.1%)であり、全国平均を6.9ポイント上回る。

(4) 特に課題が見られた問題

【ピックアップポイント】

全国と比べて、正答率の差が最も大きかったもの。…問題 7 (1)

【出題の趣旨】

四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる。

■ 学習指導要領における領域・内容

[第2学年]D データの活用

(1) データの分布について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解すること。

■ 評価の観点

知識・技能

問題 7

イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日といいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるかが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。

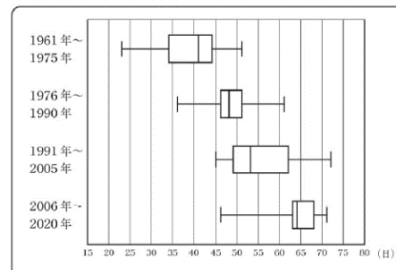
そして二人は次のような表にまとめました。

二人は、右の表を見て、経過日数が年によって大きくなったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりに分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することになりました。

各年の黄葉日

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
⋮	⋮	⋮
2019	12月10日	71
2020	12月4日	65

黄葉日までの経過日数の分布



次の黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。

(1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。

	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	61.6	65.7

◆ 全国平均を4.1ポイント下回っている。

【解答類型及び解答の割合(%)】

	正 答	解答類型(かけ算の順序は不問)	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	10 と解答しているもの	61.6	65.7
2		34から44 と解答しているもの	2.6	2.2
3		28 と解答しているもの	10.7	9.5
4		23から51 と解答しているもの	0.6	0.8
99		上記以外の解答	18.6	16.2
0		無回答	5.8	5.6

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

- ◆ 【解答類型2】は、四分位範囲を第1四分位数から第3四分位数までの区間と捉えたと考えられる。
- ◆ 【解答類型3】は、四分位範囲をデータの最大値と最小値の差である範囲と混同していたと考えられる。
- ◆ 【解答類型4】は、四分位範囲をデータの最小値から最大値までの区間と捉えたと考えられる。
- ◆ 【解答類型 99】の中には、「41」という解答がみられた。これは、1961 年～1975 年の中央値と捉えたと考えられる。
- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

複数の集団データの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を通して、四分位範囲の必要性和意味を理解できるように指導することが大切である。

その際、四分位範囲は、第3四分位数と第1四分位数の差で求められ、全てのデータのうち中央値を中心とする約半数のデータの散らばりの度合いを表す指標であることを確認することが大切である。

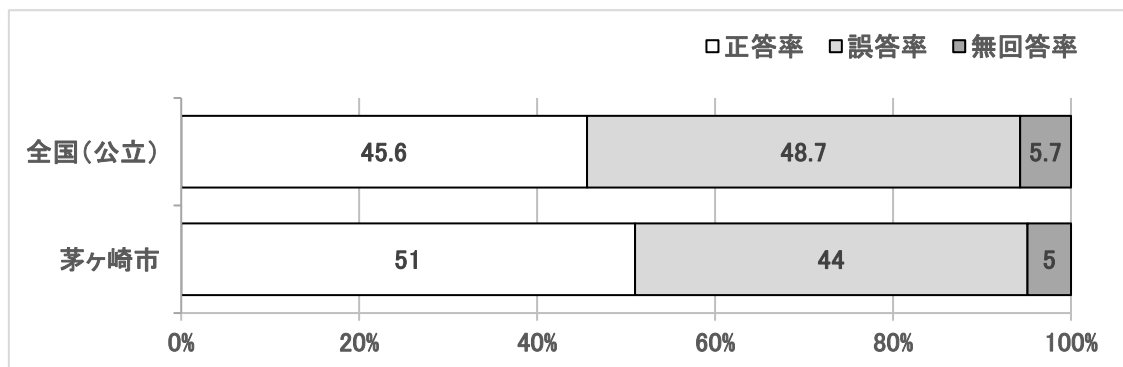
また、極端にかけ離れた値が一つでもあると、最大値や最小値が大きく変化し、範囲はその影響を受けやすいが、四分位範囲はその影響をほとんど受けないという性質を確認することも大切である。

本設問を使って授業を行う際には、単純に四分位範囲を求めるだけでなく、四分位範囲が小さいほどデータの中央値のまわりの散らばりの程度が小さいことを確認することも考えられる。

(令和5年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和5年8月、文部科学省)

中学校英語

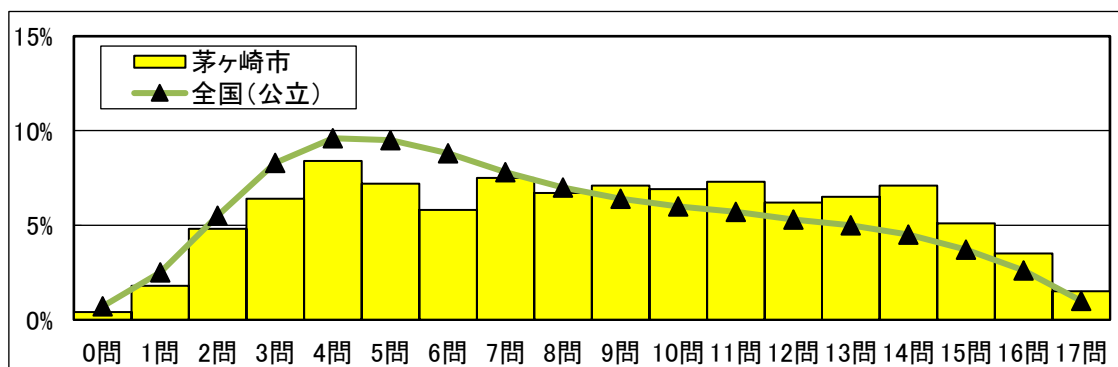
(1) 正答率等比較



(令和5年度中学校英語正答率等比較)

◆ 全国の平均正答率が、45.6%であるのに対し、茅ヶ崎市は51%で、全国を5.4ポイント上回る。

(2) 正答数分布

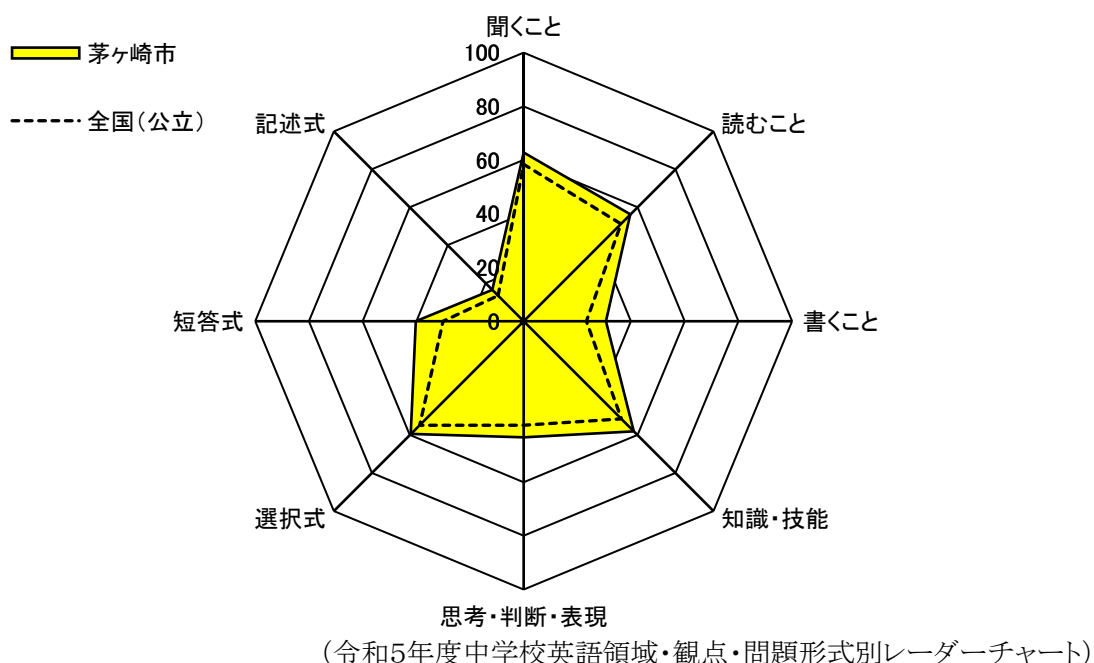


(令和5年度中学校英語正答数分布グラフ)

	茅ヶ崎市	全国(公立)
第3四分位	12問	11問
第2四分位(中央値)	9問	7問
第1四分位	5問	4問
四分位範囲(ばらつき)	7	7

◆ 茅ヶ崎市のばらつきは全国とほぼ同じだが、中央値は全国よりも高い。

(3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



◆ 全ての領域等において、全国平均を上回る。

(4) 特に課題が見られた問題

【ピックアップポイント】

全国平均を上回ったが、正答率が最も低かったもの。…問題 10

【出題の趣旨】

日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「導入ー本論ー結論」や「主張ー根拠や具体ー主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことも必要である。

本設問では、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを把握するために、学校の英語版ウェブサイトに掲載する学校紹介文を書く問題とした。

なお、本設問は、平成31年度【中学校】英語 10 (正答率 1.9%) において、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く」ことに課題が見られたことを踏まえて出題した。

■学習指導要領における領域・内容 書くこと イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ■評価の観点 思考・判断・表現 ■学習指導要領に示されている言語活動との関連 書くこと (ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。
--

問題	10
あなたの学校では、全校の英語版ウェブサイトを開いています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを一つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。 *短縮形(I'm や don't など)は1語と数え、符号(、 や ? など)は語数に含めません。	

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	9.3	7.4

◆ 全国平均を1.9ポイント上回っている。

【解答類型及び解答の割合(%)】

正答の条件 次の条件を満たして解答している。 ① 学校生活(行事や部活動など)の中から1つ取り上げている。 ② 紹介する内容を一貫性のある文章で書いている。 ③ 25語以上の英語で書いている。				
類型	正答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	条件①、②、③を満たし、正確な英語(語や文法事項等の誤りがない)で解答しているもの(下に例を示す) ・Our school has a school festival in October. In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize. Many people come to listen to our songs. [33 words]	0.5	0.3
2	○	条件①、②、③を満たし、おおむね正確な英語(コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項の誤りがない)で解答しているもの(下に例を示す) ・Our school has a school festival in October. In the festival, we have _ chorus contest and we practice hard. We want to win the gold plize. [26 words]	8.8	7.2
3		条件①、②、③を満たして解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	33.2	30.9
4		条件①、②を満たし、おおむね正確な英語(コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない)で解答しているが、条件③を満たさないもの(20語～24語の英語で書いているもの)	0.6	0.3

5	条件①、③を満たし、条件②は満たさないで解答しているもの	16.5	14.8
6	条件②、③を満たし、条件①は満たさないで解答しているもの	0.4	0.4
7	条件③を満たさないで解答しているもの(解答類型4を除く)	17.5	21.5
99	上記以外の解答	3.3	3.3
0	無解答	19.1	21.4

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

「○」…問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

- ◆【解答類型3】は、学校生活について紹介したいものを取り上げ、紹介する内容を一貫性のある文章で書いているが、正しい語や文法事項等を理解して文章を書くことに課題があると考えられる。(下に例を示す)

•We have a school festival in October. It's a chorus contest and we want to win practice hard every day. Many people are come to listen to our songs. [29 words]

- ◆【解答類型5】は、学校生活について紹介したいものを取り上げ、紹介する文章を書いているが、話題が次々と変わったり、文と文との関係において適切さを欠いたりするなど、一貫性のある文章で書くことに課題があると考えられる。(下に例を示す)

•Our school has a school trip in May. We can enjoy a sports festival in September. Our school also has a chorus contest in October. [25 words]

- ◆【解答類型7】は、学校生活について紹介するために必要な表現が身に付いていない、または問題の指示文を理解できておらず、学校生活について紹介したいものを取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書くことができていないと考えられる。(下に例を示す)

•I like baseball. I practice hard every day. [8 words]

- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

テーマについてまとまりのある文章を書くためには、テーマについて事実や考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書くことが重要である。その際、テーマについて書く内容を想起できるようにすることや、伝えたい内容を読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を理解して文章を書くことができるように指導することが必要である。さらに、説明文を書く際には、「主題とその具体例」、意見文を書く際には、「最も伝えたいこととその理由」など、目的に応じて文章構成を判断するように指導することも大切である。

なお、まとまりのある文章を書くことができるようになるためには、読むことの活動を書くことの活動につなげていく指導を行うことも大切である。

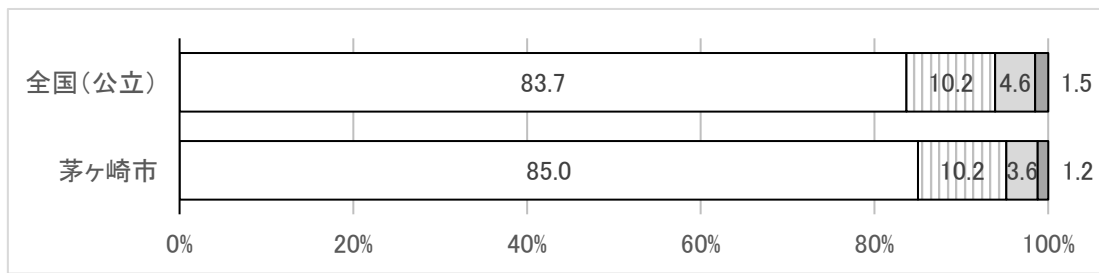
(令和5年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和5年8月、文部科学省)

児童生徒質問紙・学校質問紙調査から

基本的生活習慣に関する状況

(1) 【児童生徒質問紙】「朝食を毎日食べていますか」

【小学校】



【中学校】



□ している ▨ どちらかといえば、している ■ あまりしていません ■ 全くしていません

◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに90%を超えている。

【本市における児童・生徒の朝食喫食率と平均正答率との相関】

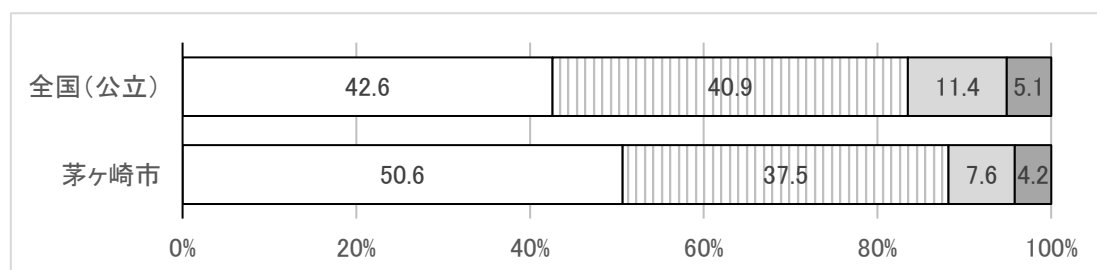
朝食を毎日食べていますか		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語	算数		国語	数学	英語
1	している	85.2	64.2	62.1	81.9	70.0	54.3	52.9
2	どちらかといえば、しています	10.0	56.7	53.0	10.0	68.2	49.8	47.2
3	あまりしていません	3.6	47.1	47.9	5.8	59.7	41.5	38.7
4	全くしていません	1.2	40.0	41.8	2.3	60.5	37.5	38.9

◆ 肯定的に回答した児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

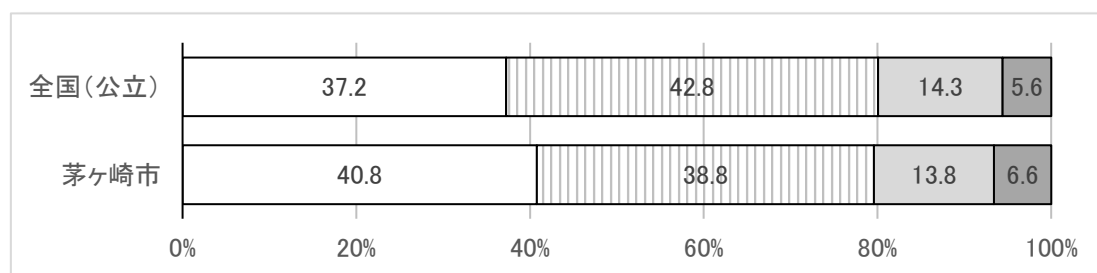
自己肯定感に関する状況

(1) 【児童生徒質問紙】「自分には、よいところがあると思いますか」

【小学校】



【中学校】



☐ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☐ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに約80%となっている。

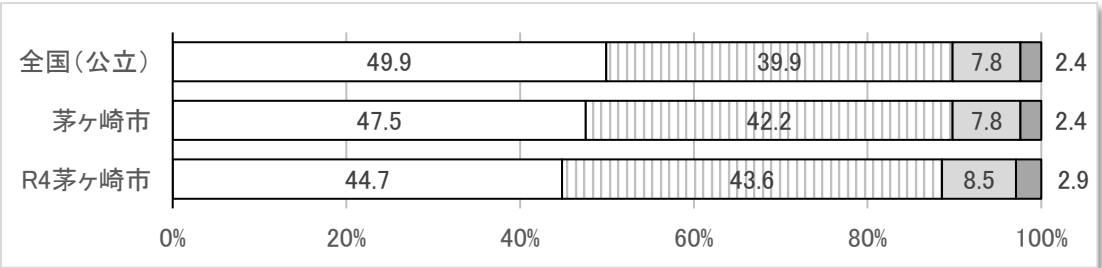
【本市における児童・生徒の自己肯定感と平均正答率との相関】

自分には、よいところがあると思いますか		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語	算数		国語	数学	英語
1	当てはまる	50.6	64.9	63.6	40.9	68.9	53.5	53.1
2	どちらかといえば、当てはまる	37.6	61.1	58.0	38.8	69.5	52.7	51.7
3	どちらかといえば、当てはまらない	7.4	59.2	57.4	13.8	68.9	52.3	45.5
4	当てはまらない	4.2	53.0	49.4	6.6	66.9	49.9	49.1

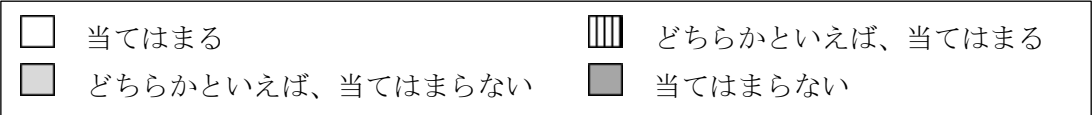
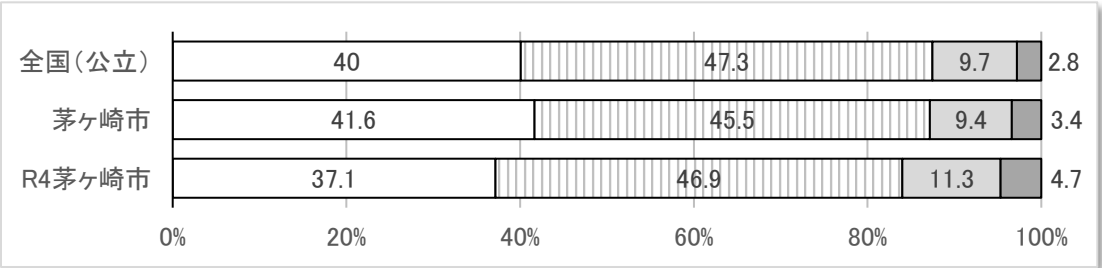
◆ 肯定的に回答した児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(2) 【児童生徒質問紙】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

【小学校】



【中学校】



- ◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに全国平均とほぼ同じである。
- ◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに昨年度よりも全国平均に近づいてきた。

◆ 【本市における児童・生徒の自己肯定感と平均正答率との相関】

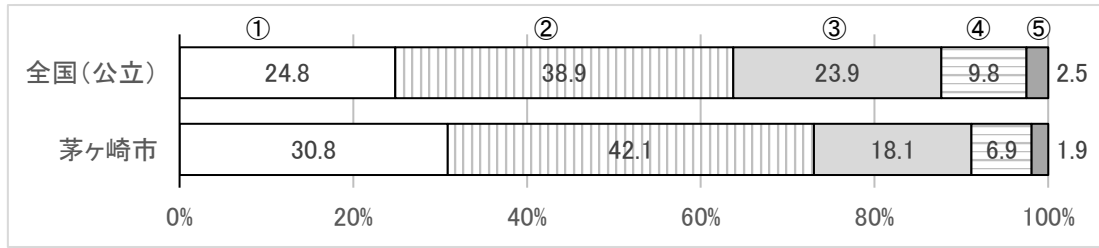
先生は、あなたのよいところを 認めてくれていると思いますか		児童数の 割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)		
			国語	算数		国語	数学	英語
1	当てはまる	47.4	65.4	63.3	41.6	70.7	55.0	54.3
2	どちらかといえば、当てはまる	42.3	61.0	58.6	45.7	69.1	52.4	50.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	7.8	56.4	55.9	9.3	63.4	46.4	45.1
4	当てはまらない	2.4	53.1	52.0	3.3	63.1	48.0	47.9

- ◆ 肯定的に回答した児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

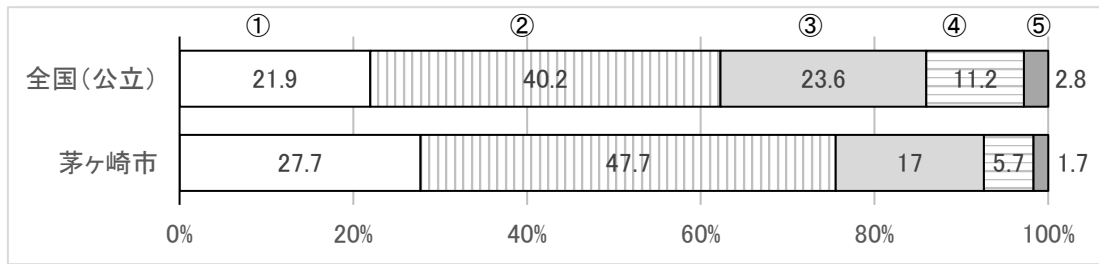
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- (1) 【児童生徒質問紙】「5年生[中学生は2年生]までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

【小学校】



【中学校】



- ① 発表していた ② どちらかといえば、発表していた ③ どちらかといえば、発表していなかった
④ 発表していなかった ⑤ 考えを発表する機会がなかった

- ◆ 肯定的な回答が、児童は72.9%(全国63.7%)と、全国平均を9.2ポイント上回り、生徒は75.4%(全国62.1%)と、全国平均を13.3ポイント上回っている。

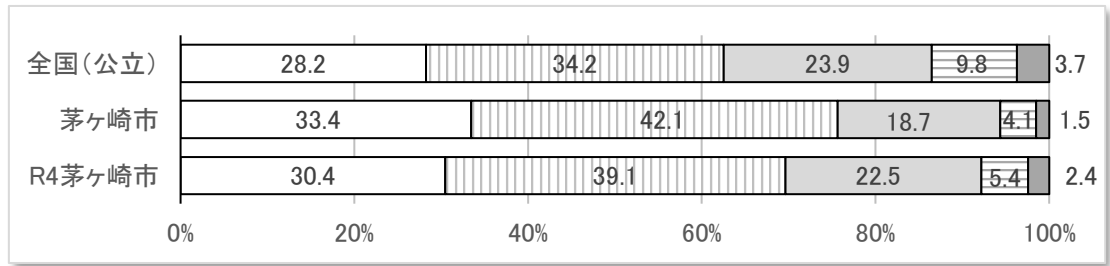
【本市における授業中の発表の工夫状況と平均正答率との相関】

	5年生[中学生は2年生]までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語	算数		国語	数学	英語
1	発表していた	31.1	70.8	69.5	27.8	74.4	59.4	57.7
2	どちらかといえば、発表していた	42.0	62.4	60.1	47.7	70.8	54.6	53.1
3	どちらかといえば、発表していなかった	18.1	55.1	52.5	17.0	63.2	44.0	42.8
4	発表していなかった	6.8	51.8	49.2	5.7	48.9	34.5	34.4
5	考えを発表する機会がなかった	1.9	40.4	36.4	1.7	57.6	43.4	36.8

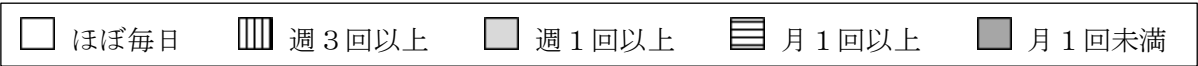
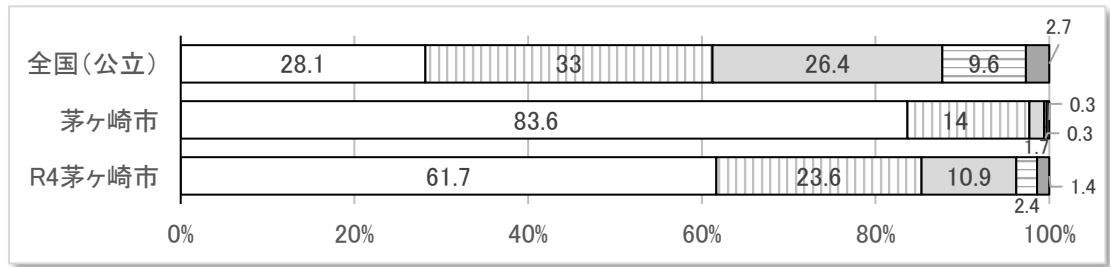
- ◆ 肯定的な回答をした児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(2) 【児童生徒質問紙】「5年生、[中学生は2年生]までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」

【小学校】



【中学校】



- ◆ 週3回以上使用したとする回答が、児童は75.5%(全国62.4%)と、全国平均を13.1ポイント上回り、生徒は97.6%(全国61.1%)と、全国平均を36.5ポイント上回っている。
- ◆ 今年度の茅ヶ崎市における週3回以上使用したとする回答は、児童・生徒ともに昨年度よりも大幅に増加している。

【本市における授業中の ICT 機器の利用状況と、平均正答率との相関】

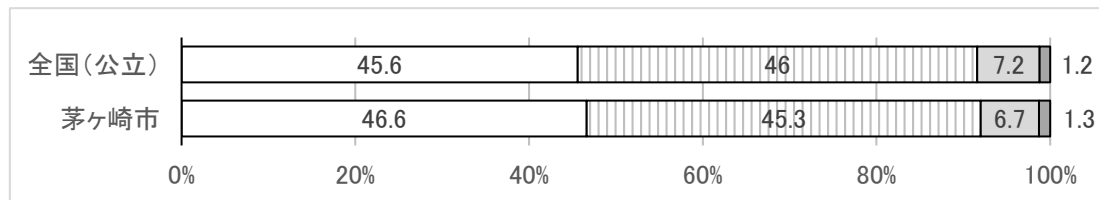
5年生、[中学生は2年生]までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか		児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)		生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)		
			国語	算数		国語	数学	英語
1	ほぼ毎日	33.6	64.3	61.9	83.8	70.0	53.9	52.0
2	週3回以上	42.3	63.9	61.2	13.9	65.4	48.0	48.1
3	週1回以上	18.6	60.2	60.0	1.5	53.1	39.5	45.8
4	月1回以上	4.1	51.5	48.5	0.3	71.1	51.1	55.9
5	月1回未満	1.3	42.9	43.1	0.3	42.7	36.0	28.2

- ◆ 肯定的な回答をした児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

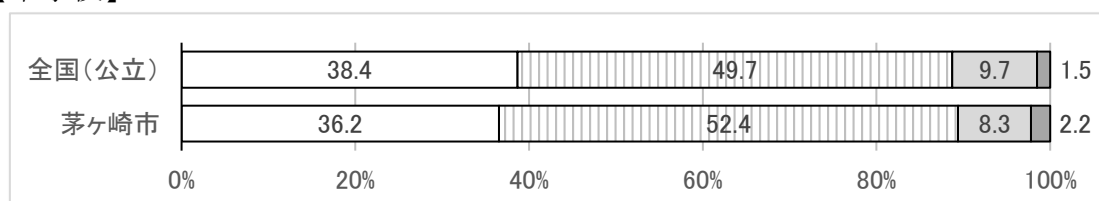
規範意識に関する状況

(1) 【児童生徒質問紙】「人が困っているときは、進んで助けていますか」

【小学校】



【中学校】

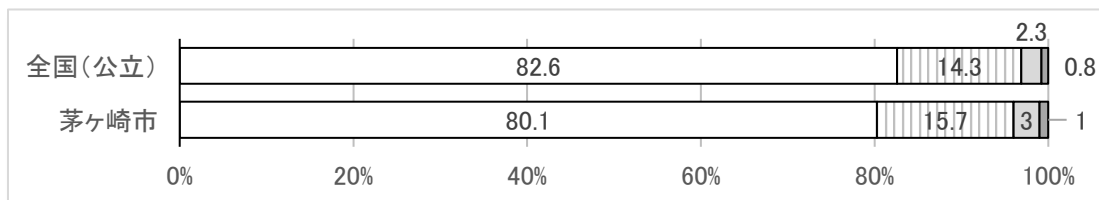


☐ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☐ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

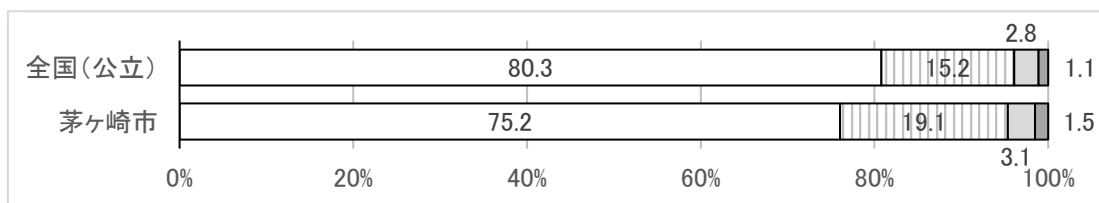
◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに約90%となっている。

(2) 【児童生徒質問紙】「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

【小学校】



【中学校】

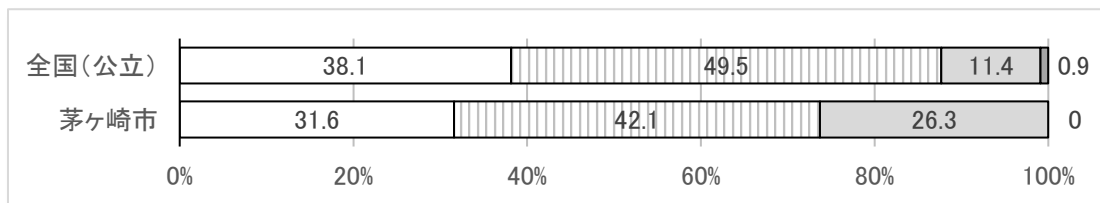


☐ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☐ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

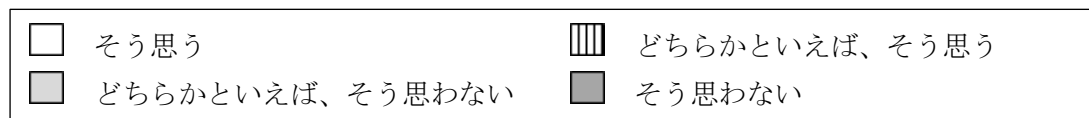
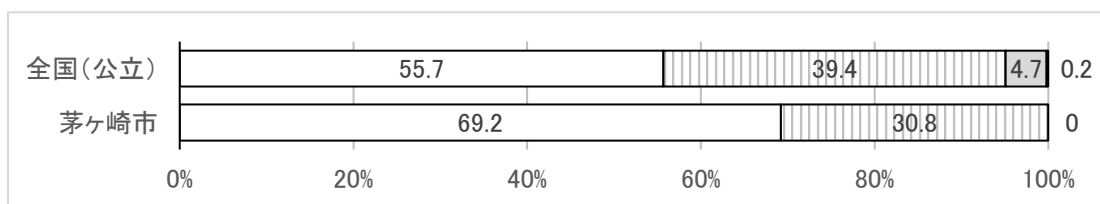
◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに約95%となっている。

(3) 【学校質問紙】「調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」

【小学校】



【中学校】

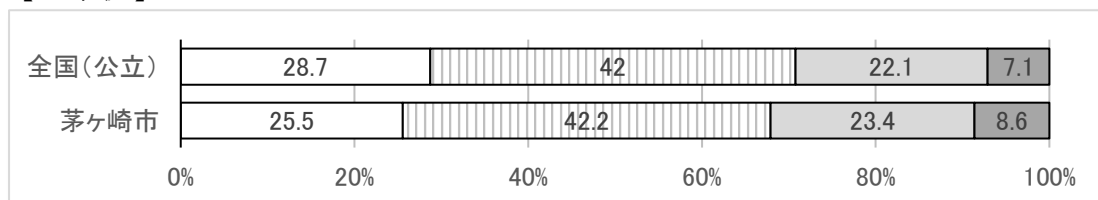


- ◆ 肯定的に回答した割合は、小学校は73.7%(全国87.6%)、中学校は100%(全国95.1%)である。

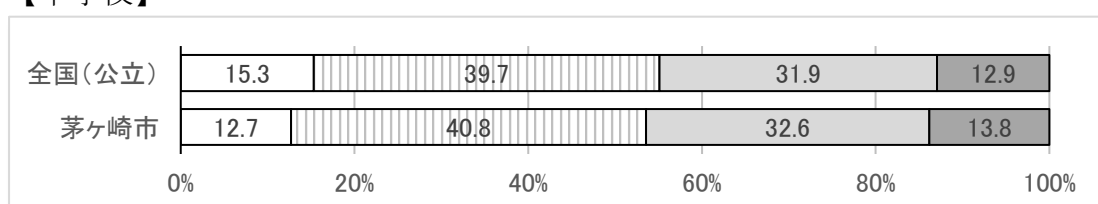
学習習慣等に関する状況

(1) 【児童生徒質問紙】「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」

【小学校】



【中学校】

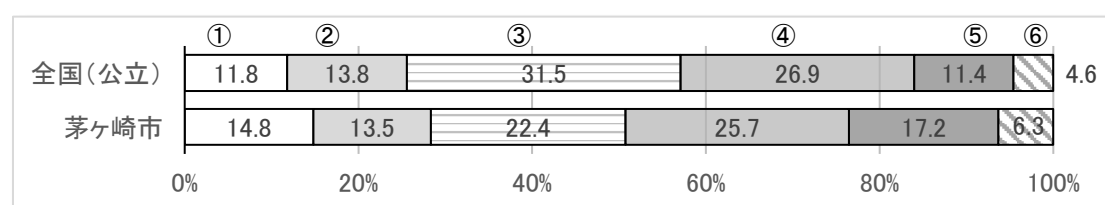


□よくしている ▨ときどきしている □あまりしていない ■全くしていない

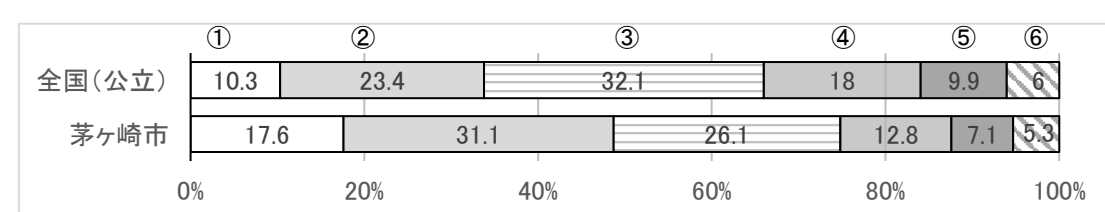
◆ 肯定的に回答した割合は、児童は約70%、生徒は約50%と、全国平均とほぼ同じである。

(2) 【児童生徒質問紙】「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

【小学校】



【中学校】



① 3時間以上 ② 2~3時間 ③ 1~2時間 ④ 30分~1時間 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

- ◆ 1日当たり30分以上勉強している割合(①～④)が、児童は76.4%(全国84%)と、全国平均を7.6ポイント下回っているが、生徒は全国平均とほぼ同じである。
- ◆ 1日2時間以上勉強している割合(①、②)が、生徒は48.7%(全国33.7%)と、全国平均を15ポイント上回っている。

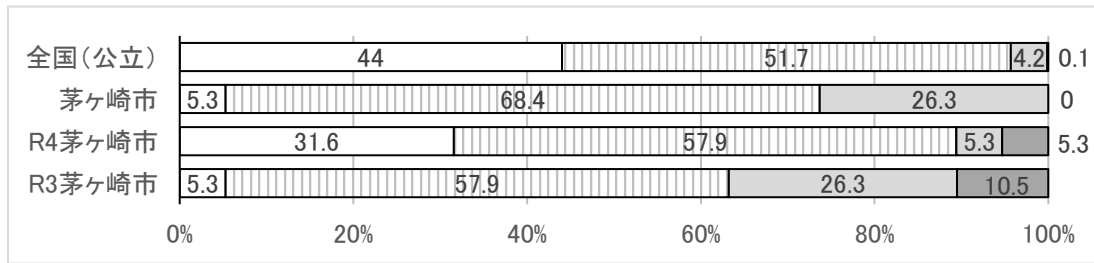
【本市における、学校の授業時間以外の学習時間と平均正答率との相関】

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語	算数		国語	数学	英語
1	3時間以上	14.8	74.1	74.3	17.7	73.4	59.0	56.7
2	2時間以上、3時間より少ない	13.6	65.0	62.6	31.1	72.9	56.3	55.8
3	1時間以上、2時間より少ない	22.5	61.8	60.3	26.1	68.3	52.8	50.5
4	30分以上、1時間より少ない	25.7	61.6	58.2	12.8	65.9	46.4	46.4
5	30分より少ない	17.2	58.3	55.1	6.9	59.3	45.0	43.2
6	全くしない	6.1	47.5	47.2	5.3	55.4	36.7	32.6

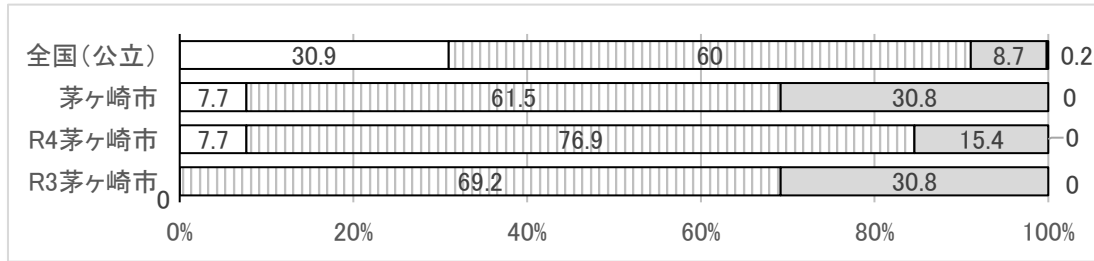
- ◆ 学習時間が長い児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(3) 【学校質問紙】「調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」

【小学校】



【中学校】

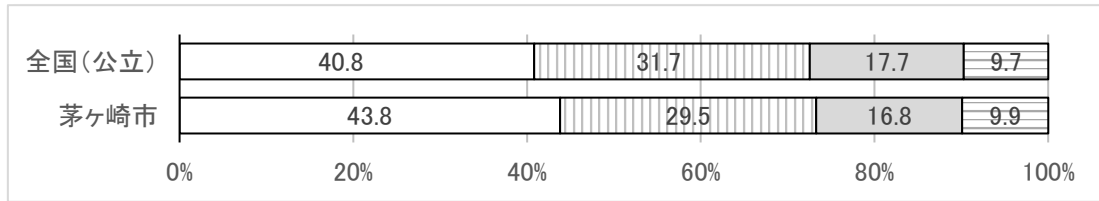


☐	よく行った	☒	どちらかといえば、行った
☒	あまり行わなかった	☐	全く行わなかった

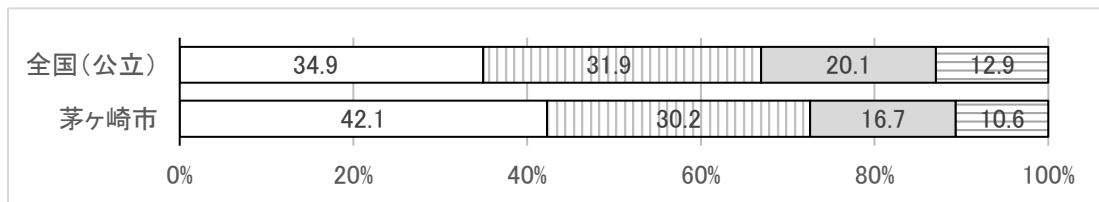
- ◆ 肯定的な回答が、小学校は73.7%(全国95.7%)と、全国平均を22ポイント下回り、中学校は69.2%(全国90.9%)と、全国平均を21.7ポイント下回っている。
- ◆ 昨年度は、小学校は肯定的な回答が全国平均に近づいていたが、今年度は、一昨年度と同様、大きく下回る結果に戻っている。

(4) 【児童生徒質問紙】「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか」

【小学校】



【中学校】



☐	当てはまる	☒	どちらかといえば、当てはまる
☒	どちらかといえば、当てはまらない	☐	当てはまらない

【本市における、外国に対する興味・関心と平均正答率との相関】

外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語	算数		国語	数学	英語
1	当てはまる	43.8	64.8	62.0	42.1	70.8	54.7	56.8
2	どちらかといえば、当てはまる	29.4	62.4	60.6	30.1	70.8	53.9	51.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	16.8	60.1	59.0	16.8	67.9	50.5	45.9
4	当てはまらない	9.9	57.3	55.6	10.6	58.9	46.1	38.7

- ◆ 外国に対する興味・関心が高い児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。この設問の「1 当てはまる」と「4 当てはまらない」と解答した児童・生徒の平均正答率の差は、小学校の国語で7.5ポイント、算数で6.4ポイント、中学校の国語で11.9ポイント、数学で8.6ポイントに対し、中学校の英語では18.1ポイントとなっており、特に中学校の英語の正答率の差に、顕著に相関関係が表れている。

各家庭で取り組んでいただきたいこと

(1) 基本的な生活習慣に関すること

スマートフォン等の普及に代表されるICTの急速な進化は、大人同様に子どもたちのライフスタイルの幅広い場面において、大きな変化をもたらしています。ゲームやSNS、動画視聴等、使用する時間が増加していることから、子どもと保護者が相談しながら一定範囲内に収めるなどの使い方のルールを決めていく必要があります。

また、毎日朝食を摂る、就寝・起床時刻を決めて前日に学校の準備をするなど、規則正しい生活を送ることが大切です。

(2) 自己肯定感に関すること

「自分にはよいところがある」と思う児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、自己肯定感、物事に前向きに取り組むための土台とも言えます。

子どものよいところや頑張りを見つけ、褒める場面を増やすとともに、失敗しても諦めずに挑戦する姿を応援しましょう。子どもに向き合い会話を重ねながら、子どもの苦手なことや得意なことについて理解を深めていくことが大切です。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点に関すること

小・中学校ともに、知識・技能の領域における平均正答率が低いことから、学習した内容を日常的に活用する機会を設けることが大切です。

家庭では子どもが学校で学んだことを宿題や教科書を一緒に見ながら話題にするなどし、学校の授業内容を保護者も知ることが大切です。また、子どもが興味をもちそうな本を紹介したり、ニュースや新聞記事など刻々と変化する社会情勢等を話題にしたり、意識的に子どもの考えを表現させる機会をもつことも大切です。

(4) 規範意識に関すること

規範意識の醸成のためには、「公共の場で、どのように振る舞うことが適切であるか」、「社会の一員として、どのように責任ある行動をとることができるか」等、保護者・教職員を含めた身近な大人が手本となり、子どもが自らの価値観に問いかけながら行動していく経験の積み重ねが大切です。自転車の乗り方のようなルールや、横断歩道で停止した車に対する感謝の気持ちの表し方などのマナーは、日々の生活の中で身の回りの大人の姿を見て身に付くものです。特に、大きな社会問題となっているいじめについては、家庭でも、相手の立場になって物事を考える大切さを話題にしていくことが必要です。

(5) 学習習慣等に関すること

学校で学習したことを振り返る、または予習するなど、家庭学習に取り組むことで、より学習内容が身に付いていることが窺えます。保護者と一緒に学習に取り組んだり、保

護者が学習のきっかけとなる言葉掛けをしたり、子どもが自分で課題を設定し計画を立て取り組んだり、発達段階に応じて望ましい学習習慣が身に付くよう、家庭でも子どもの取組を把握し、褒めるなどして家庭学習への意欲を高めていくことが大切です。

各小・中学校が取り組むこと

(1) 基本的な生活習慣に関すること

現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容として、「心身の健康の保持増進に関する教育」、「食に関する教育」について、児童・生徒や学校、地域の実態及び児童・生徒の発達の段階を考慮し、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図ることが必要です。(参照:小学校学習指導要領解説総則編 P.236～P.243、中学校学習指導要領解説総則編 P.232～P.239)

(2) 自己肯定感に関すること

自己肯定感は、学習への意欲を支える基盤となるものです。

本調査では、約80%の児童・生徒が自分自身によいところがあり、教職員に自分のよいところを認めてもらっていると感じています。が、「よいところを認めてくれている」とについて肯定的でない回答をした児童・生徒が、学校生活全般においてどのような戸惑いを感じているかなど、児童・生徒の内面に目を向ける必要があります。

また、よい結果のみを褒めるのではなくその経過についてほめること、また上手いかない際に、過程における取組の姿勢を認め、上手いかなかった原因がどこにあるのかを把握させながら、次への意欲につながる言葉掛けをしていくことが大切です。

さらに、教職員は、誰もが自らの学習を調整しながら粘り強く取り組んでいけるような授業を常に模索し続けるとともに、その中で粘り強く取り組む児童・生徒を積極的に褒めることが大切です。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点に関すること

小・中学校ともに、知識・技能の領域における平均正答率が低いことから、学習した内容を日常的に活用する機会を設けることが大切です。各学校は授業の中で、その児童・生徒に備わっている「既有知識」とのつながり、「前時の内容」とのつながり、「協働して学ぶ友達」とのつながり、「教科横断的視点にたった教科間」とのつながりなど、様々なつながりを意識する中で、児童・生徒が自分の考えを文章等で表現する活動を充実させ、その意義や目的を児童・生徒と共有する必要があります。学んだことを自分の言葉でまとめたり、人に伝えたりするなど、アウトプットを意識した発問や課題の設定を行ったり、表現力を向上させるため、「振り返り」や「交流の時間・場」を確保したりすることが大切です。

また、GIGAスクール構想において配備した1人1台タブレット端末の活用が進ん

できているところですが、「何のために使うのか」や「情報活用能力の育成」を意識した授業づくりを進めていくことが大切です。

(4) 規範意識に関すること

学校の教育活動全般を通して、児童・生徒が互いに尊重し合い、協働してよりよい学級や学校をつくっていく上で、共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識を身に付けていくことが重要です。そのためには、規律を守ることの必要性を児童・生徒が主体的に考え、よりよく判断できる力を育むことが必要です。

学習規律について、児童が規律を意識し、落ち着いて授業を受けていると感じている教職員は70％程度にとどまっています。引き続き、児童・生徒が学習規律を維持することの大切さを意識できるような指導に努めることが必要です。

また、いじめはどんな理由があってもいけないことについて、否定的な回答が5％弱あることから、学校は、「よかれと思ってしたことであっても、相手が心身の苦痛を感じれば、法律上のいじめに該当する」ということについて、児童・生徒の理解を深める必要があります。引き続き、いじめ問題に対する正しい理解と多様な生き方や価値観を認め合える学校を目指し、いじめの未然防止の取組の推進は大変重要です。

一方で、学校は成長途中にある児童・生徒が集まる場所である以上、人間関係のトラブルは当然起こり得ます。発生してしまったいじめ事案の解決を自校の最優先課題と位置づけ、組織的に対応し、全ての児童・生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、取組を推進していくことが必要です。

(5) 学習習慣等に関すること

宿題は、学校での学習内容を定着させたり、今後の見通しをもたせたりするための家庭における大切な学習の機会です。各学校では、引き続き、児童・生徒の実態に応じた家庭学習の内容を精査するとともに、どのように取り組ませるかについて家庭と共通理解を図っていく必要があります。児童・生徒の実態に応じた宿題を出す際には、取り組ませ方、無理のない計画といった事前の指導に加え、事後の見取りと評価、励ましなど、児童・生徒の学習意欲を高めるための関わりが必要です。また、家庭学習の具体例を提示するなど、自学自習に向けて、各学年に応じて家庭と学校が連携して、児童・生徒の学びを深めていく必要があります。

教育委員会として

(1) 学校生活や学習への意欲を高めるために

児童・生徒の自己肯定感は、周囲の大人によって育まれていく要素が強く、教職員が、児童・生徒を深く理解し、個々の状況に合ったよりよい関わりをすることにより、児童・生徒の自己肯定感が高まっていくと考えます。また、自分を肯定的に捉えることで、

他の児童・生徒、学級や学校への肯定的な関心が高まっていき、自他ともに大切にできる仲間づくりにつながっていくと考えます。このことは、今後、社会の一員として生きていく意識の芽生えとともに、規範意識の醸成や生きる力につながります。

また、教職員が児童・生徒一人一人と向き合い、個々の成長に気付き、その成長を認め、具体的に褒めることができる関係作りが重要です。

教職員が児童・生徒を深く理解するために、児童・生徒指導担当教員研究会をはじめ、人権教育研修会、道徳教育研修講座等の研修の充実を図るとともに、学校訪問等の機会を通じて、学校における児童・生徒の学びの姿から、適宜、指導・助言等を行ってまいります。

(2) 学びの質を高めるために

常に児童・生徒の学習状況を把握し、学びの質を高めるための授業改善に努めることが重要であることから、各学校が学校組織全体の指導力の向上を図れるよう、教育委員会が所管する推薦研究や計画訪問、校内研究推進担当者研修会等、様々な機会を通じて、本調査の結果の共有を図り、児童・生徒が抱える課題や教育活動に関する改善点について研究してまいります。

児童・生徒の学びの過程の質を高めるために、学校においては、単元や題材のまとまりの中で、児童・生徒が「何ができるようになるか」という目的や、「何を学ぶか」という学習内容を明確にし、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていくことが重要と考えます。特に、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを保障するために、「分かる」、「できる」、「考える」といった流れのある学習指導を行えるよう、指導・助言の充実に努めてまいります。

また、令和3年度より、1人1台タブレット端末が配備され、教職員と児童・生徒や児童・生徒同士が考えを交流する双方向のコミュニケーションがとりやすくなるなど、これまで以上に学びの可能性は広がっています。引き続き、児童・生徒のよりよい学びにつなげるため、教職員が活用方法を学び合ったり、ICTを活用した指導力の向上を図ったりする機会の充実に努めてまいります。

「令和5年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析」

発行日 令和5年12月26日

発行 茅ヶ崎市教育委員会 教育総務部 教育センター・学校教育指導課